

## 平成21年度 バイオマス推進事業について

### バイオマスとは

本来「生物量」「生物体量」と訳されていたが、近年、生物起源からなる食料、資材あるいは燃料を意味する言葉としてとらえられるようになった。

「バイオマス・ニッポン総合戦略」においては、再生可能な、生物由来の有機性資源物で化石資源を除いたものを対象としている。

### えひめバイオマス利活用マスタープラン

愛媛県では、バイオマスの利活用の促進を掲げ、廃棄物系バイオマスや、木質系バイオマスの有効利用に向けた対策を実施。平成16年6月に「えひめバイオマス利活用マスタープラン」が策定された。

#### ① えひめバイオマスプロジェクトの内容

愛媛県では、「えひめバイオマス利活用マスタープラン」の推進方策のひとつとして、休耕田等を活用して栽培したヒマワリ等の油糧作物からエネルギー変換を図るとともに、各過程で生じる廃棄物を有効利用するという総合的なシステムである「えひめバイオマスプロジェクト」を推進。

平成17年度 実証試験

- ・バイオディーゼル燃料製造装置の開発
- ・ヒマワリ収穫機械の開発
- ・ヒマワリの茎・葉等からのバイオエタノール製造や循環型堆肥、ヒマワリ繊維混抄等の利活用研究、不純物を利用した製品開発

#### ② 技術提供によるモデル事業展開

平成18年度 市町を主体としたモデル事業の実用化を進める。推進協議会による国等の補助制度の導入(バイオマスの環づくり交付金 事業費の1/2)、BDF製造装置や収穫機械等の貸与等、技術面、財政面の支援を検討する。

宇和島市・東温市・松前町・鬼北町

上記の流れを受け、平成17年10月、県環境政策課が、えひめバイオマスプロジェクトのモデル町として参加しないかと相談がありました。

### 利活用目的

- ・ひまわりを栽培しそれから油を採取し食用や燃料に活用することにより、環境政策と町花ひまわりを活用した環境のまちづくりを推進していく。
- ・遊休地等を活用し、景観の創出を図る。
- ・ひまわり栽培で収穫した種から食用油、バイオディーゼル燃料などを製造・利活用することにより、資源のリサイクルを推進し、環境にやさしいまちづくりに取り組み、循環型社会の形成を目指す。



## 平成21年度バイオマス事業実施目標

### ① 油糧作物の栽培に係る事業

事業名 松前町バイオマス推進事業(ひまわり栽培等事業)

- ・ 作付面積 約 70 a 品種:ハイブリットサンフラワー
- 種収穫予想量 約 957kg

### ② バイオマス燃料製造に係る事業

事業名 松前町バイオマス推進事業(バイオマス燃料製造事業)

計画の詳細 ①で収穫した種から油を食用として保育所等で使用し、その廃油から BDF 燃料を製造し、公用車等に利用しバイオマスエネルギー利活用の推進を図る。

- ・ 搾油予想量 105 ㍓

使用済み食用油回収ボックスを公的施設等に設置し、今まで廃棄し焼却されていた油を、気軽に持参してリサイクルできるシステムを作りを行なう。

### ④ イベント・シンポジウム等の開催、パンフレット・ポスター等の作成等バイオマスエネルギー普及啓発活動に係る事業

事業名 松前町バイオマス推進事業(イベント等事業)

計画の詳細 イベント等を利用し、住民へのバイオマスの利活用の醸成を図る。

- ・ ①で行うひまわり栽培圃場において、バイオマス推進事業の案内板等を作成し、見学者にバイオマスエネルギープロジェクトのPRを図る。
- ・ 8月上旬中川原地区でひまわり祭を行い、バイオマス利活用に関するPRを行う。また、その際バイオマス利活用に関するパネル等の展示を行う。
- ・ 委託地区で行なわれる文化祭等で、取り組みの啓発を行なう。  
11月上旬に行なわれるまさき文化祭において、バイオマス利活用に関するパネル等の展示を行う。また、②の事業で搾油した油を利用し作製したBDFを使用したトラクターの稼働・搾油作業のデモンストレーションを行い、住民へのバイオマス利活用の醸成を図る。
- ・ ②の回収ボックスで回収した油を燃料精製施設にて BDF 燃料(B5等)に変換し、公用車で利用する。



愛媛県 伊予郡  
松前町全図

西古泉 古泉駅付近

中川原 ひよこたん池周辺

東古泉 伊予高校の東付近

凡 例

1:25,000

愛媛県伊予郡松前町役所